

一点目については、具体的には川越いもの加工、販売を想定していた。6次産業センターでは、リンゴや栗、野菜など小布施の農産物を生かした独自製品を、地元農家の手により加工し直接販売。事務局長の富岡氏からは、具体的に受託生産（OEM）によって取り組んでいるリンゴジュースの事例を詳しくお話ししていただいた。

現在、食の安全や表示の問題が社会的、国際的な問題になっている。そうした中、川越いもの二次加工を考える上で、自前で加工するのではなく、加工を委託することが第一歩ではないかと感じました。

また、2点目の町並修景については、ア・ラ・小布施の企画部長・関悦子氏より1時間半にわたるご講演の後、町に出て町並みについて説明を受ける。（現在町議会議員をされている）

新しい箱物の建設ではなく、伝統的な景観をいかに残し生かしていくのか、そして、そこに民間の活力と専門家の知恵を導入することの大切さをご示唆いただいた。



関悦子氏より説明を受ける

議会改革は

予算改革から！

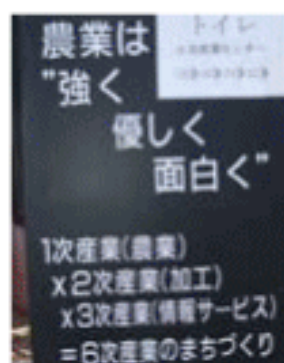
開かれた議会を目指して、昨年度より三芳町議会も議会改革に取り組んでいる。

折しも、去る3月29日、「予算改革をはじめよう！」というテーマの下、法政大学市ヶ谷キャンパスにてセミナーが開催され、全国から200人を超える議会関係者が集まった。

中でも、前我孫子市長の福嶋浩彦氏（写真上）の講演に学ぶことが多かった。

「市民自治と予算改革」というテーマで、福嶋氏は先ず、首長と議会のあり方に苦言を呈している。

『首長も議員もそれぞれ住民の選挙によって選ばれており、二元代表制の自治体の議会には、国会



6次産業